

令和2年度 第2回 北海道地区需給情報連絡協議会 議事概要

1. 日時：令和2年1月25日 13:30～15:30
2. 場所：北海道札幌市 ニューオータニイン札幌

3. 概要

各議題について、出された意見等は以下のとおり。

(1) 議題1：木材需給動向について

<素材>

- ・旭川地区は、一時期、コロナの10万人当たりの新規感染者数が東京より悪かった。コロナ対策がなされ、素材生産業は、今後それほど下火にならず続けていけるのではないか。

<木材加工>

- ・栈木は全体的に落ち込みあったが、当初想定されていたほどではなかった。製材は、森林認証材を求める客に恵まれたということもある。
- ・集成材は、販売先の仕様変更、全体的な落ち込みなど、複合的な要素により3割減くらいとなった。
- ・梱包材は、昨年11月頃から需要が若干戻ってきて、各製材工場は1週間弱の受注残を抱え操業。年明け2月の受注状況はそれまでの3か月と比べて良くない。例年2月は良くないが、2月の落ち込みがどこまでいくか心配。
- ・梱包材・パレット材についても、従来、輸入材との競合だった。北海道は製材の半分弱が梱包材・パレット材に使われているが、本州にスギ梱包材工場ができ相当量入り込んでいる。全国的に梱包材・産業資材向けの木材が増えていることを認識のうえで、建築向けと同様に政策の拡大をお願いしたい。
- ・合板製造について、5月以降受注が減り、6、7月と生産量2割減として稼働日数制限を行った。8月後半から回復傾向となり、12月時点は例年並みの生産・受注となった。4月からの原木在庫過多は、カラマツは9月に解消、トドマツは10月中旬に解消した。3月以降、生産量に応じて原木購入していく。

<流通>

- ・移出合板用原木について、消費税増税があった頃から、需要動向が下がり気味。そこに新型コロナが発生し、去年の1月から9月くらいまで受け入れ停止が発生。4～12月の数量は、昨年度に比べカラマツは3割増、トドマツは3割くらいにとどまる。今、需要は回復しているが、我々も含め、各社需要の数量に対応しきれしていない。

<木材利用>

- ・道内から調達する燃料材は混乱無く調達できている。ただ、コロナ禍を鑑み、発電所内で感染者が出たという想定では、発電所を一定期間閉鎖する基本方針なの

で、罹患防止に細心の注意を払いながら操業している。

- ・木造住宅についてはそれほど大きな影響ない。低炭素社会、国の省エネ基準のこともあり、木造建築には追い風。問題は、どういう建物をどういう形でだれが建てるのか、住宅のほか、非住宅に対してもどう木を使っていくのか考えていく必要。道産材を使うならば、安定した価格で安定供給してもらうことが大事。

(2) 議題2：需給ギャップの解消について

- ・中間土場設置による国の補助金制度、北海道の取り組んだ制度をグループで取り組んだ。合板向けを中間土場に、山土場から一般材の直送という供給を行い、非常に役に立ったので今後も続けていきたい。
- ・難しい面もあるかと思うが、供給側と需要側が連携を密に情報交換していくことが非常に重要。それが皆で共有できれば需給ギャップは改善されると思う。
- ・山側と工場でスピード感が違う。工場はマーケットの要請で急に注文が来たりするが、山側は2～3週間かかるためすぐ対応できない。少しでもマーケットのタイミングに近づくようにしてもらえるとありがたい。
- ・これまで需要増のことを考え原木在庫量を積み増しして対応したが、今回は需要減が長期化しすぎてしまっとうまくいかなかった。特にトドマツは半分腐らせてしまった。製材工場がかなりの金額を被った。これらの教訓を踏まえれば、将来同じように対応していくのは難しい。
- ・取引先、行政も含めて、情報交換を密にして、その時点での最善策を見つけて柔軟に対応していくしかないのではないかな。
- ・中間土場での在庫調整が重要。マーケットに合わせて柔軟に在庫を持ちながら、ニーズに応じて供給していく、これを可能な限り続けていきたい。
- ・紙パルプは、去年の春～夏にかけて、原木の需要がそこそこあり、荷余り感はそれほどなかった。

新聞用紙などは毎年右肩下がり、ここにきて漫画用などの需要が出てきているが、総じて力強い回復には至っていない。

- ・燃料材について、今現在は大丈夫だが、今後、国有林の供給が絞られると、原料が足りなくなる懸念は若干あり、至る所に土場を設けながら燃料材を調達している。資源の供給について、前広に情報提供願いたい。
- ・コロナの影響は昨年2月頃から出てきた。12～3月が素材生産の最盛期で、2月に需給の雰囲気が悪くなってきたと気づいた時には既に材が出てきていた。この結果、春先に山で原木が滞留した。
- ・なるべく出材を伴わない事業展開をしてきており、秋くらいには滞留したものを整理できた。
- ・今年は例年より山に在庫がないが、ここに来て需要が盛り返してきている。一生懸命伐採しているが、春先に向けてどれだけためられるか、という状況。
- ・春先は植え付けその後育林、冬に伐採という流れがあるが、より需要に応じた供

給を考えなければいけない。近年は民有林も伐期を迎えてきて、以前より夏の伐採も増えてきている。

- ・北海道の国有林は、立木販売の供給調整や 11 月から素材の委託販売の一部見合わせによる供給調整を、地域の需給動向を踏まえながら実施している。移出、合板、建築材で回復の兆しがあると認識。11 月の発動時に比べて、現在は徐々に緩和している状況。きめ細かく対応したい。
- ・中間土場について昨年度、北海道の協力を得て調査した結果、150 箇所の中間土場が確認でき、土地利用者・管理者に対して聞き取りを行った (77 箇所)。発電所の稼働が相次いだため顕著に増加しており、仕分け機能を有する箇所も 25%あった。ストックはもちろん、仕分け機能も持たせながら、需給ギャップの解消・需給マッチングに貢献できるのではないかな。

(3) 議題 3 : 協議会の活動について

- ・構成員から色々な情報をもらえるが、具体的にどう活かすのかが必要。
- ・建築用材を中心とするマーケットにいかに関業として食い込んでいくか、物流の合理化の意味で鉄道が使えないか、それによって旅客用路線の維持にもつながるのではないかな。
- ・協議会の在り方について、参加者で木材流通に関わる業者 (トラック業者や JR) の参加が重要ではないかな。流通業者の実態把握も含めて、協議会に参加してもらって意見いただければよい。

(4) 座長総括

- ・今まで行ってきた情報交換や、需給調整に関する取組は、円滑な業務を進めていく上で重要な役割を果たしている。
- ・その上で川上—川下連携、中間土場の取組など、以前の原木の広域流通構想から議論されていたものであるが、今まで抱えていた課題が改めてクローズアップされた。
- ・単にコロナ対応ということだけでなく、先を見通して、海外にも学びながら、新しい川上から川下のあり方を考えていくことが必要。
- ・協議会の在り方について、ただ情報を持ち帰るだけでなく、今のような議論をもっと掘り下げられるような仕掛けを考える必要。
- ・トラック協会や JR など流通業者の参加も検討したい。

以 上